

あるとき私は幸町のコーヒーショップにいました。たしか金曜日で暖かい春の日の午後、お客さんがもう一組。初めのゆっくりした揺れの後、店内の食器がガチャガチャと鳴ったかと思うと激しい揺れがやって来て、皆一斉に外に飛び出しました。

外では電線が鳴るザーツという音。工事中の向いのビルの屋上では、大きなクレーンがガッタガッタガッタと今にも落ちて来そうに揺れていました。

ハッと気がついたのが1人でいる実母と義母のこと。心配になって電話したけれど全然つながらず、焦って飛んで帰って2人とも無事なのを確認して安堵しました。あ那时的光景と音は今でも鮮明に記憶しています。

幸いにも私たちの町はまだ大きな被害を受けてはいませんが、それはただ幸運なだけかもしれません。あ那时的ことを忘れずに災害に備えなければと思います。 (海岸通り O)

3.11娘の卒業式で終了後帰宅中、一方通行の道路上激しい揺れを感じ、周りを見ると電線が縄跳びのように揺れていて、地震と思い一旦車を止めましたが、一方通行の狭い道路のため広い所まで出て治まるのを待った記憶が鮮明に残った。

あるとき私は藤沢ヨドバシカメラビルの3階で買物中。立ってられないほどの揺れで、壁に手を付いて揺れが治まるのを待ち、外へ。電車はストップ。バス、タクシー待ちの長い列を横目に、コンビニでトイレを済ませ、飲料水とパンを買い歩く。途中、情報を得たく辻堂駅に寄るが周囲は混乱していたので、また歩き出した。一番怖かったのは、ひたすら津波警報が鳴ってた事。南側に行かずに1号線を歩いて帰宅しました。

当時、娘の職場は愛甲石田でバスに乗れたのは並んでから2時間後。平塚駅に着いたのはバスに乗ってから3時間後。車で平塚駅まで迎えに行きました。娘は寒さで凍えていました。

「寒かった、怖かった」、と言った娘と無事に会えましたが、会えなかったら…

娘を迎えに向かっている時は、自分の身を守ることを忘れていました。 (M)

忘れがたい記憶

東日本大震災の支援で何度か現地に入りました。

石巻市の記憶は臭いです。津波の臭い。

ヘドロのどぶ臭いにおいが街中を覆っていて、強烈に覚えています。

大槌町の記憶は光景です。すべてを潰した津波の光景。

ゴジラが通ったように街中がすべて壊されて、点々と瓦礫が残っていました。

山本町、釜石市の記憶は被災体験です。被災者の方の声です。

引き波の怖さ、足を取られて押し流された恐怖。

津波にのまれながら家の天袋に逃げて、取り残されて寒さに凍えたつらさ。

東日本の忘れがたい記憶は笑顔です。東北の人懐っこい笑顔と希望。

時は経つけれど忘れがたい、忘れない、ずっと思い続けています。

